

令和2年7月7日

意見発表

鈴木委員

まず、スポーツ局ですが、質疑の中でお話ししましたが、令和2年度6月補正予算（その1）で、スポーツ費のうちセーリング競技開催費が6億7,500万円、その後、令和2年6月23日に令和2年度6月補正予算（その2）として新たな11億数千万円が出てきたのだが、本来であれば、この増額分及び減額分の予算については、本会議においてトータルな論議がなされなければいけなかったということを指摘させていただきました。

財政当局にもこの旨、私は伝えて、今後このようなことがないようにと話しておきましたが、本来の在り方として、ひとつ御一考いただければということが第1点です。

第2点は、同じくセーリング競技開催費ですが、そもそもは昨年から始まった事業で、いきなりこの補正が11億円でどうのこうのというよりも、何隻がどこからどこに移り、何隻が残って、そしてまたターンさせなければならないというその詳細が全然見えない。

また、そういう書類が出てこない中で、数字だけ見て、論議を求めることはいかがなものか。できましたら、次の国際文化観光・スポーツ常任委員会等々でもいいですから、この実際の動きが、目に見えるような形で議会側に提案いただければということが、スポーツ局に対する意見並びに要望です。

二つ目には、今回は観光について、観光企画課長を中心にお話をさせていただきました。そのような中で私がすごく感じたことは、特に地元かながわ再発見というところで、答弁によると、宿泊、日帰りを今後行い、約10万人というお話でした。

ところが、果たしてこれは10万人でなく、御家族ではどうなのか。たかだか九百数十万人の県民の中で、例えば、子供1人と夫婦で行かれたとした場合は、3万3,000所帯ぐらいしか行けないということです。要するに、そういういろいろな細かいデータを積み上げて、この10万人は出てきたのか、そのものはどうなのか。

あわせて、万が一、第2波の新型コロナウイルスとの闘いが始まったときには、観光どころではない。そういうリスクを全部前提として、こういうものがなされたのかどうかということを、私はすごく心配しました。

私が今回この中でもって、全般見させていただいたのですが、そのときに少し思いついたことを3点ばかり、お話をさせていただこうと思う。

第1点は、今お話しさせていただいたように、そもそもが県の観光行政の役割とは何なのかをまず明確にしたほうがいいのではないかと。次々と各論のいろいろな話が出てくるが、観光立県かながわは、このようにしてつくりますというプロジェクトは、確かに県がつくっている神奈川県観光振興条例に書いてある。だが、これと、この神奈川力構想の中に出てきているものとのリンクは、ほぼなされていない。そもそもが、そういうものをつくろうとするプロジェクト

トは、具体的にこれとこれとこれをやって、こうなりますという構成にならないければいけないのに、私から言わせれば、それが一つも見えない。そうしない限り、一つ一つの施策が全部完結してそこに行かないということになるではないですか。

私が見て、この中で特に驚いたことは、神奈川県観光振興計画の中で1ページのイの中に書いてあるのですが、城ヶ島・三崎、大山、大磯の3地域において、回遊性の向上や受入環境の整備などをこれからしっかり行っていくと書いてある。ところが、具体的にこれについての記述がまず見られない。そうなってくると、一体、あなた方の目指しているこの観光立県かながわは、どういうものなのかということ、まず明確にしなければならぬだろうと、私は一つ言えると思います。

二つ目は、要するにこの中でほかにいろいろなデータを、中で見させていただいた。ところが、一つ一つ全部、入込観光客数で、どのような人が泊まって、どういう人が消費をしてというようなことは、これからは一つも見えない。そうなってくると、例えば、横浜等々は、宿泊者はいっぱいいたとしても、ビジネスで泊っている人に観光は関係ない。多分、観光企画課長との質疑の中でお話しさせていただきました。そうすると、これから、この神奈川県観光振興条例の第18条にあるように、データの時代をどうやって先取りするかということで、ぜひともこのデータにこだわった行政をしっかり行っていただきたいということが2点目です。

3点目は、先ほどから答弁をお聞きしていると、ウィズコロナとおっしゃっているが、では、それは具体的な取組が出てこないと私は思っていたわけです。

ところが、現場を見てみると、今、中国ではやっているライブコマースという言葉は御存じですか。要は観光地等々のいろいろなものを動画で映し、それを俳優やインフルエンサーと言われる人たちが案内をし配信させて収入にするビジネスで、圧倒的にはやっている。こういうのを見ると、観光かながわNOW、Tokyo Day Tripを私も見させていただいたが、動画はまずあまり見ない。そういう状況下の中で、ウィズコロナとは言っているけれども、どういう戦略で行うのかということを出ていないのではないかと一つ。あわせて、箱根では、この前少し私もある方と会って見させていただいたが、Meet Geishaという動画を通じて芸者が、特に今、アメリカ、ヨーロッパで相当ヒットしているようです。

そうすると、新しいそういうやり方は、国際観光課長と話をしていないから分からないが、このようなものは、ウィズコロナの時代に向けて次々と進んでいる割には、出てくるものがあまりにも何か貧しいものしか出てこない、つらい言い方で恐縮ですが、県は、何もやっていないと申し上げないが、私は、行政が観光として何をすべきなのか、最後、まとめて言わせていただくと、委託ということで、次々と神奈川県の行政として実施するものはなくなっているのではないかと、私は心配しているわけです。もう一度、そういう発信をお願いして、諸議案に賛成させていただきます。